



本資料は、サノフィ(フランス、パリ)が2014年4月29日(現地時間)に発表したプレスリリースを日本語に翻訳・編集し、5月13日に配信するものです。本資料の正式言語はフランス語・英語であり、その内容および解釈については両言語が優先します。日本語で承認されている主な製品名および一般名についてはカタカナ表記をしています。

2014年度第1四半期の1株当たり事業純利益⁽¹⁾ 為替レート変動の影響を除き5.8%増

- グループの総売上高⁽²⁾は、3.5%増の78億4,200万ユーロ。成長基盤⁽³⁾の売上高は、7.9%増の57億7,600万ユーロで、2014年度第1四半期の総売上高に占める割合は73.7%
- 第1四半期における事業純利益⁽¹⁾は5.6%増(為替レート変動の影響を除く)の15億4,700万ユーロ、1株当たり事業純利益⁽¹⁾は為替レート変動の影響を除くと5.8%増、調整前では3.3%減の1.17ユーロ
- 設備投資後のフリーキャッシュフローは、20.6%増の13億9,600万ユーロ
- アジア初の Deng 熱ワクチン第III相試験において、Deng 熱の発症数が56%減少し、主要評価項目を達成
- alirocumab に関する第III相 ODYSSEY MONO 試験の肯定的な結果が米国心臓病学会(ACC)で発表される。他の9件の第III相試験の主なデータは、2014年度第3四半期末までに得られる見込み
- アトピー性皮膚炎において dupilumab を評価する肯定的な第IIa相試験の結果が米国アレルギー・喘息・免疫学会議(AAAAI)で発表される。第IIb相試験の重要データを第2四半期に報告し、2014年度第3四半期に第III相を開始できる見通し
- Lantus[®](ランタス)/Lyxumia[®](リクスマア)の固定比率合剤である LixiLan に関する第III相プログラムを先ごろ開始
- ジェンザイムが2014年度第2四半期に Lemtrada[™]の生物学的製剤追加承認申請(sBLA)を米国食品医薬品局(FDA)に再提出する予定
- Chattem 社が2014年2月に Nasacort[®] OTC 点鼻薬を発売。メリアルが2014年度第1四半期に米国で新世代のノミ・マダニ駆除薬である NexGard[™](ネクスガード)を発売
- 2014年4月4日より、Regeneron 社の議決権比率を20%とするために持分法を適用
- 第1四半期の業績は、2014年2月6日に発表した通年の見通しに一致しています。重大な予期せぬ要因が発生しない限り、成長基盤の継続的な業績と新製品発売および後期開発段階パイプラインへの支出によって、2014年度の1株当たり事業純利益⁽¹⁾が4%~7%程度(為替レート変動の影響を除く)増加するものと予想されます。

サノフィ最高経営責任者(CEO)のクリストファー・A・ヴァーバツハーのコメント:

「第1四半期におけるグループの業績は、2013年末からの成長路線を維持しています。当社の1株当たり事業純利益⁽¹⁾は、通年の財務見通しに沿って、為替レート変動の影響を除き5.8%増加しました。重要な点として、パイプラインは着実に進展しています。alirocumab および dupilumab の試験結果を報告し、LixiLan の第III相プログラムを開始し、Lemtrada[™]の生物学的製剤追加承認申請(sBLA)を再提出する計画を発表しました。また、初の Deng 熱ワクチンの第III相試験が主要評価項目を達成しました。ここからの3四半期に、Toujeo[™](U300)、Deng 熱ワクチン、alirocumab、Cerdelga[®]、dupilumab などの有望な複数のパイプラインプロジェクトに関し、重要な開発マイルストーンを達成できるものと期待しています」

(1)財務指標の定義は付録6を参照 (2)特に指定のない限り、純売上高の増加は為替レートの変動影響を除いて(CER)算出(定義は付録6を参照)
(3)2ページを参照

サノフィ株式会社

〒163-1488 東京都新宿区西新宿 3-20-2 東京オペラシティタワー
www.sanofi.co.jp

2014年度第1四半期の主要データ

	2014年度 第1四半期	前年同期比 (調整前)	前年同期比 (CER)
純売上高	€7,842m	-2.7%	+3.5%
事業純利益 ⁽¹⁾	€1,547m	-3.2%	+5.6%
1株当たり事業利益 ⁽¹⁾	€1.17	-3.3%	+5.8%

当グループの業績をわかりやすく示すため、損益計算書について説明します。事業純利益⁽¹⁾は、GAAP(一般会計原則)に調整を加えた財務指標です。2014年度第1四半期の連結損益計算書については付録4に、事業純利益から連結純利益への調整については付録3に記載しています。2014年度第1四半期の連結純利益は、前年同期の9億8,900万ユーロに対し、10億8,400万ユーロでした。2014年度第1四半期の連結1株当たり利益は、前年同期の0.75ユーロに対し、0.82ユーロでした。

2014年度第1四半期純売上高

特に指定のない限り、当プレスリリースの売上高伸長データは、為替レート変動の影響を排除して⁽¹⁾算出しています。

2014年度第1四半期における売上高は、前年同期比(調整前)2.7%減の78億4,200万ユーロとなりました。為替レートの変動(主に対ユーロでの米ドル、日本円、ブラジル・リアル、ロシア・ルーブル、アルゼンチン・ペソ、トルコ・リラ、オーストラリア・ドルの下落)により、6.2ポイントのマイナスの影響を受けました。

成長基盤

2014年度第1四半期におけるグループの成長基盤の売上高は、糖尿病(13.2%増)、コンシューマー・ヘルスケア(18.6%増)、ジェンザイム(21.5%増)、および「その他の革新的製品」(22.6%増)に牽引され、7.9%増の57億7,600万ユーロとなりました。第1四半期にグループの成長基盤が連結売上高全体に占める割合は、前年同期の71.0%から73.7%に増加しました。

(単位:100万ユーロ)	2014年度 第1四半期 純売上高	前年同期比 (為替レート変動の影響を 除く)
糖尿病	1,662	+13.2%
コンシューマー・ヘルスケア(CHC)	885	+18.6%
ワクチン	628	-4.2%
ジェンザイム	566	+21.5%
動物用医薬品	517	-1.6%
その他の革新的製品 ^(a)	190	+22.6%
新興市場 ^(b)	2,590	+5.5%
－糖尿病、ワクチン、CHC、動物用医薬品、ジェンザイム、その他の革新的製品	1,262	+12.4%
－その他の製品	1,328	-0.3%
成長基盤合計	5,776	+7.9%

(a) 上記のその他の成長基盤に属さない2009年以降に発売された製品、すなわち Multaq[®]、Jevtana[®]、Zaltrap[®]、Auvi-Q[™]/Allerject[™]、および Mozobil[®]を含む

(b) 米国、カナダ、西欧諸国、日本、オーストラリア、ニュージーランドを除く各国

医薬品

2014年度第1四半期における医薬品事業の売上高は、ジェンザイム、糖尿病、コンシューマー・ヘルスケアに牽引され、4.7%増の66億9,700ユーロとなりました。

⁽¹⁾ 財務指標の定義は付録6を参照

糖尿病領域

(単位:100万ユーロ)	2014年度 第1四半期 純売上高	前年同期比 (為替レート変動の影響を 除く)
Lantus®(ランタス)	1,448	+13.5%
Amaryl®(アマリール)	86	0.0%
Apidra®(アピドラ)	75	+19.7%
Insuman®	32	+3.0%
血糖測定器	16	+45.5%
Lyxumia®(リキスマア)	5	-
糖尿病領域合計	1,662	+13.2%

2014年度第1四半期における**糖尿病領域**の売上高は、13.2%増の16億6,200万ユーロとなりました。Lantus®(ランタス)の売上高は、米国(14.5%増の9億5,100万ユーロ)および新興市場(17.9%増の2億2,500万ユーロ)に牽引され、13.5%増の14億4,800万ユーロとなりました。期中の米国でのLantus®(ランタス)の売上数量は、不利な在庫の変動を受けて減少しました(約7,000万ユーロ)。第1四半期に、米国でLantus® SoloSTAR®(ランタス注ソロスター)がLantus®(ランタス)の売上高全体に占める割合は、前年同期の57.0%に対し、60.8%となりました。中国におけるLantus®(ランタス)の売上高は、39.4%増の4,500万ユーロとなりました。西欧諸国におけるLantus®(ランタス)の売上高は、5.6%増の2億800万ユーロでした。

1日1回投与の食後血糖改善を目指したGLP-1受容体作動薬Lyxumia®(リキスマア)(一般名:リキセナチド)は現在、イタリア、スペイン、日本、メキシコを含む諸国で販売されており、2014年度にその他の国でも順次発売が予定されています。第1四半期におけるLyxumia®(リキスマア)の売上高は、500万ユーロでした。ドイツにおいて、サノフィは、全国公的健康保険基金協会(SpiBu)との価格交渉が決裂したことを受けて、2014年4月1日にリキセナチドのドイツ国内販売を一時中止しました。現在、調停手続きが進められており、この手続きが完了次第、サノフィは状況を再評価する予定です。

第1四半期におけるApidra®(アピドラ)の売上高は、西欧諸国(21.1%増の2,300万ユーロ)および新興市場(28.6%増の1,700万ユーロ)に牽引され、19.7%増の7,500万ユーロとなりました。

第1四半期におけるAmaryl®(アマリール)の売上高は、新興市場の成長(6.0%増の6,500万ユーロ)が日本におけるジェネリック医薬品との競合(19.0%減の1,500万ユーロ)に相殺され、8,600万ユーロと前年同期並みとなりました。

コンシューマー・ヘルスケア

(単位:100万ユーロ)	2014年度 第1四半期 純売上高	前年同期比 (為替レート変動の影響を 除く)
Allegra®(アレグラ)	104	+14.1%
Doliprane®	88	+7.2%
Essentiale®	66	+45.1%
Enterogermina®	38	+5.1%
Nasacort®	42	-
No Spa®	28	+3.3%
Maalox®	27	+20.0%
Lactacyd®	25	+11.1%
Dorflex®	23	+7.7%
その他のCHC製品	444	+11.8%
コンシューマー・ヘルスケア合計	885	+18.6%

2014年度第1四半期における**コンシューマー・ヘルスケア(CHC)**製品の売上高は、18.6%増の8億8,500万ユーロとなりました。2月初め、米国でNasacort® Allergy 24HR点鼻薬が鼻のアレルギー症状を緩和するOTC医薬品として提供開始されました。Nasacort Allergy 24HRは、処方箋なしで処方薬と同用量を服薬できるこのクラス初かつ唯一の医薬品です。米国におけるNasacort®の第1四半期売上高は、3,600万ユーロでした。また、第1四半期にLactacyd®およびMaalox®が2桁成長を記録しました。

前年同期に処方薬として計上されていた一部の製品がコンシューマー・ヘルスケア製品に変更され、6,800 万ユーロの売上高を記録しました。この範囲変更を除外すると、コンシューマー・ヘルスケアの売上高は、米国での Nasacort® のスイッチ OTC 薬の成功と新興市場における好業績(13.7%増)を反映し、9.4%増となりました。

ジェンザイム

(単位:100 万ユーロ)	2014 年度 第 1 四半期 純売上高	前年同期比 (為替レート変動の影響を 除く)
Cerezyme®(セレザイム)	168	+5.8%
Myozyme® / Lumizyme®(マイオザイム)	121	+7.8%
Fabrazyme®(ファブラザイム)	98	+13.0%
Aldurazyme®(アウドラザイム)	41	+16.2%
希少疾患合計	483	+8.5%
Aubagio®	78	+305.0%
Lemtrada™	5	-
多発性硬化症合計	83	+330.0%
ジェンザイム合計	566	+21.5%

2014 年度第 1 四半期におけるジェンザイムの売上高は、Aubagio®の売上高が前年同期の 2,000 万ユーロに対し、7,800 万ユーロとなったことに牽引され、21.5%増の 5 億 6,600 万ユーロとなりました。ジェンザイムは、すべての地域で 2 桁成長を達成し、米国では 31.0%増の 2 億 1,200 万ユーロ、新興市場では 18.2%増の 1 億 1,200 万ユーロ、西欧諸国では 14.8%増の 1 億 9,400 万ユーロ、その他の地域では 19.6%増の 4,800 万ユーロとなりました。

ゴーシェ病治療薬の市場をリードする Cerezyme®(セレザイム)の第 1 四半期の売上高は、新興市場(10.0%増の 5,600 万ユーロ)および米国(7.0%増の 4,500 万ユーロ)に牽引され、5.8%増の 1 億 6,800 万ユーロとなりました。

第 1 四半期における Myozyme®(マイオザイム)/Lumizyme®の売上高は、新興市場の大幅伸長(64.3%増の 2,000 万ユーロ)に支えられ、7.8%増の 1 億 2,100 万ユーロとなりました。

第 1 四半期における Fabrazyme®(ファブラザイム)の売上高は、世界的な患者数の増加により、13.0%増の 9,800 万ユーロとなりました。Fabrazyme®(ファブラザイム)は、市場シェアの拡大を反映し、今期も西欧諸国で堅調に成長しました(25.0%増の 2,500 万ユーロ)。米国における Fabrazyme®(ファブラザイム)の売上高は、12.8%増の 5,100 万ユーロでした。

第 1 四半期における Aubagio®の売上高は 7,800 万ユーロであり、そのうち 5,900 万ユーロが米国で計上されました。2013 年度第 4 四半期に、最初の西欧諸国(具体的には、ドイツ、スイス、および北欧諸国)で同製品の販売が開始され、2014 年度第 1 四半期の売上高は 1,700 万ユーロに達しました。

Lemtrada™(一般名:alemtuzumab、再発性多発性硬化症治療薬、バイエルヘルスケア社と共同開発)は、2013 年 9 月に欧州委員会の承認を取得した後、10 月にドイツで発売され、2014 年度に欧州全土での展開を予定しています。Lemtrada™は、カナダ、オーストラリア、メキシコ、およびブラジルでも承認されています。同製品の第 1 四半期の売上高は、500 万ユーロでした。

その他の革新的製品⁽⁴⁾

(単位:100 万ユーロ)	2014 年度 第 1 四半期 純売上高	前年同期比 (為替レート変動の影響を 除く)
Multaq®	73	+21.0%
Jevtana®	66	+30.8%
Mozobil®	25	0.0%
Zaltrap®	16	+45.5%
Auvi-Q™/Allerject™	10	+25.0%
その他の革新的製品合計	190	+22.6%

(4) その他の成長基盤に属さない、2009 年以降の製品発売を含む

第1四半期における**Multaq**[®]の売上高は、米国の業績(26.5%増の6,000万ユーロ)によって牽引され、21.0%増の7,300万ユーロとなりました。第1四半期における**Jevtana**[®]の売上高は、西欧諸国での最近の発売(58.3%増の3,800万ユーロ)に支えられ、30.8%増の6,600万ユーロとなりました。第1四半期における**Zaltrap**[®](一般名:アフリベルセプト、Regeneron社との共同開発)の売上高は、西欧諸国での最近の発売(前年同期の100万ユーロに対し、700万ユーロ)によって米国での売上高減少が相殺され、45.5%増の1,600万ユーロとなりました。第1四半期における**Mozobil**[®]の売上高は、前年同期並みの2,500万ユーロでした。2013年1月に米国で発売された**Auvi-Q**[®]/**Allerject**^{TM(5)}の第1四半期の売上高は25.0%増の1,000万ユーロとなりました。

エスタブリッシュ医薬品

(単位:100万ユーロ)	2014年度 第1四半期 純売上高	前年同期比 (為替レート変動の影響を 除く)
Plavix [®] (プラビックス)	487	+18.2%
Lovenox [®]	416	+1.4%
Aprovel [®] /Avapro [®]	179	-22.8%
Renvela [®] /Renagel [®] (レナジェル)	172	+5.3%
Allegra [®] (アレグラ)	80	-46.2%
Myslee [®] (マイスリー)/Ambien [®] /Stilnox [®]	78	-14.9%
Synvisc [®] (サイビスク)/Synvisc One [®]	70	-3.9%
Taxotere [®] (タキソテール)	69	-28.7%
Eloxatin [®]	46	-15.3%

第1四半期における**Plavix**[®](プラビックス)の売上高は、18.2%増の4億8,700万ユーロとなりました。日本における売上高は、基礎となる数量の大幅増と、消費税増税を見越した購入を反映し、48.5%増の2億1,500万ユーロとなりました。新興市場における同製品の売上高は、4.4%増の2億400万ユーロでした。中国の売上高は、6.4%増の1億1,400万ユーロでした。西欧諸国における**Plavix**[®](プラビックス)の売上高は4.6%減の6,200万ユーロでした。

第1四半期における**Lovenox**[®]の売上高は、西欧諸国(7.5%増の2億2,900万ユーロ)と新興市場(4.2%増の1億3,500万ユーロ)の好業績と、米国でジェネリック医薬品の影響によりブランド製品が32.7%減の3,200万ユーロとなったことを反映し、1.4%増の4億1,600万ユーロとなりました。

第1四半期における**Aprovel**[®]/**Avapro**[®]の売上高は、ジェネリック医薬品との競合により西欧諸国での売上高が45.5%減の5,400万ユーロとなったことを受けて、22.8%減の1億7,900万ユーロとなりました。新興市場における同製品の売上高は、ほぼ前年同期並みの9,500万ユーロとなりました。

第1四半期における**Renvela**[®]/**Renagel**[®](レナジェル)の売上高は、新興市場での好業績(前年同期の1,300万ユーロに対して2,200万ユーロ)と米国での微減(2.5%減の1億1,400万ユーロ)を反映し、5.3%増の1億7,200万ユーロとなりました。

第1四半期における処方薬の**Allegra**[®](アレグラ)の売上高は、46.2%減の8,000万ユーロ、**Ambien**[®]製品群の売上高は14.9%減の7,800万ユーロとなりました。いずれも日本でのジェネリック医薬品との競合を反映しています。

Synvisc[®](サイビスク)/**Synvisc-One**[®]の第1四半期の売上高は、米国での売上高減少(12.7%減の5,300万ユーロ)の影響を受け、3.9%減の7,000万ユーロとなりました。

第1四半期における**Taxotere**[®](タキソテール)の売上高は、米国および西欧諸国におけるジェネリック医薬品の侵食と、新興市場における売上高減少(23.2%減の3,900万ユーロ)を反映し、28.7%減の6,900万ユーロとなりました。第1四半期における**Eloxatin**[®]の売上高は、15.3%減の4,600万ユーロとなりました。

ジェネリック医薬品

第1四半期におけるジェネリック医薬品の売上高は、ブラジルでの回復(5,200万ユーロ)が米国での**Lovenox**[®]および**Taxotere**[®](タキソテール)のオーソライズド・ジェネリック医薬品の売上高減少によって部分的に相殺され、8.0%増の4億

⁽⁵⁾ Sanofi US は、北米における Auvi-Q け商業化のライセンスを Intelliject, Inc. 社から取得

2,100 万ユーロとなりました。新興市場におけるジェネリック医薬品の売上高は、ブラジルの大幅回復を受けて、23.6%増の 2 億 4,400 万ユーロとなりました。

ワクチン

(単位:100 万ユーロ)	2014 年度 第 1 四半期 純売上高	前年同期比 (為替レート変動の影響を 除く)
ポリオ・百日咳・インフルエンザ菌 b 型(ヒブ)ワクチン(Pentacel [®] 、Pentaxim [®] 、および ImovaxPolio [®] (イモバックスポリオ皮下注)を含む)	211	-15.9%
インフルエンザワクチン(Vaxigrip [®] と Fluzone [®] を含む)	135	+19.3%
成人用ブースター(追加接種)ワクチン(Adacel [®] を含む)	81	0.0%
トラベラーズワクチンおよびその他風土病用ワクチン	75	+10.8%
髄膜炎菌性髄膜炎・肺炎ワクチン(Menactra [®] を含む)	56	-25.0%
その他のワクチン	70	+4.3%
ワクチン合計(連結売上高)	628	-4.2%

第 1 四半期におけるサノフィパスツールの連結売上高は、新興市場における Pentaxim[®]の段階的な供給調整の影響と、前年同期には Imovax[®](イモバックスポリオ皮下注)(日本)と Menactra[®]の売上高が堅調であったことを受け、4.2%減の 6 億 2,800 万ユーロとなりました。米国では、Pentacel[®]の段階的な回復に牽引され、23.8%増の 2 億 7,900 万ユーロとなりました。新興市場における売上高は、Pentaxim[®]の段階的な供給の影響を受け、15.0%減の 2 億 6,100 万ユーロとなりました。

第 1 四半期におけるポリオ・百日咳・インフルエンザ菌 b 型(ヒブ)ワクチンの売上高は、15.9%減の 2 億 1,100 万ユーロでした。第 1 四半期の業績は、メキシコおよび中国での Pentaxim[®]の供給時期と、2012 年 9 月の発売以来のキャッチアップ接種の需要が終息に向かい日本で Imovax[®](イモバックスポリオ皮下注)の売上高が減少したことの影響を受けました。予想どおり、第 1 四半期の業績には、米国での Pentacel[®]の段階的回復が反映されています。

第 1 四半期におけるインフルエンザワクチンの売上高は、米国での H7N9 インフルエンザワクチンの売上高 1,600 万ユーロを含め、19.3%増の 1 億 3,500 万ユーロとなりました。米国におけるインフルエンザワクチンの売上高は、H7N9 インフルエンザワクチンの売上高を含め、40.0%増の 2,100 万ユーロでした。新興市場におけるインフルエンザワクチンの売上高は、17.2%増の 1 億 500 万ユーロとなりました。

第 1 四半期における成人用ブースターワクチンの売上高は、前年同期並みの 8,100 万ユーロとなりました。Adacel[®]の売上高は、米国での段階的な供給回復を反映し、4.8%増の 6,300 万ユーロとなりました。

第 1 四半期におけるトラベラーズワクチンおよびその他風土病用ワクチンの売上高は、Typhim Vi[®]の売上高増加に牽引され、10.8%増の 7,500 万ユーロでした。

第 1 四半期における Menactra[®]の売上高は、中南米での髄膜炎菌性髄膜炎の流行に伴う前年同期の高基準と中東での売上高減少を反映し、23.9%減の 4,800 万ユーロとなりました。

欧州におけるメルク社とのジョイントベンチャーであるサノフィパスツール MSD(サノフィに非連結)の第 1 四半期の売上高は、Gardasil[®]が北欧諸国でのキャッチアッププログラムを受けた前年同期の高基準と、2013 年 4 月にフランスで実施された予防接種スケジュールの変更に伴う小児用ワクチンの売上高減少を反映し、前年同期比(調整前)8.8%減の 1 億 5,800 万ユーロとなりました。

動物用医薬品

(単位:100 万ユーロ)	2014 年度 第 1 四半期 純売上高	前年同期比 (為替レート変動の影響を 除く)
コンパニオンアニマル	344	-3.7%
産業動物	173	+2.8%
動物用医薬品合計	517	-1.6%
−フィプロニル製品	171	-8.2%

–NexGard™ (ネクスガード)	23	-
–アベルメクチン製品	114	-14.8%
–ワクチン	154	-1.2%

第1四半期における動物用医薬品の売上高は、1.6%減の5億1,700万ユーロでした。新興市場における売上高は、3.9%増の1億2,100万ユーロでした。

第1四半期におけるコンパニオンアニマル・セグメントの売上高は、3.7%減の3億4,400万ユーロでした。メリアルは、ノミ・マダニのシーズンに備え、第1四半期に米国およびフランスで犬用NexGard™(ネクスガード)を発売しました。成猫および子猫の内部および外部寄生虫に対する独自製品であるBroadline™(ブロードライン)がフランスでも発売されました。NexGard™(ネクスガード)の売上高は2,300万ユーロであり、寄生虫駆除薬のFrontline®(フロントライン)/フィプロニル製品群の売上高は、8.3%減の1億6,900万ユーロでした。また、Heartgard®(アベルメクチン製品ライン)については、前年同期に米国での競合製品の供給問題が有利に働いていました。

第1四半期における産業動物セグメントの売上高は、豚事業の業績に牽引され、2.8%増の1億7,300万ユーロとなりました。

地域別純売上高

(単位:100万ユーロ)	2014年度 第1四半期 純売上高	前年同期比 (為替レート変動の影響を 除く)
新興市場^(a)	2,590	+5.5%
–中南米	734	+13.1%
–アジア	734	+4.0%
–東欧、ロシア、およびトルコ	604	+4.0%
–アフリカ	233	-11.0%
–中東	253	+10.9%
米国	2,415	+7.5%
西欧諸国^(b)	1,998	-0.3%
その他^(c)	839	-4.0%
–日本	587	-2.5%
合計	7,842	+3.5%

(a) 米国、カナダ、西欧諸国、日本、オーストラリア、ニュージーランドを除く各国

(b) フランス、ドイツ、英国、イタリア、スペイン、ギリシャ、キプロス、マルタ、ベルギー、ルクセンブルク、ポルトガル、オランダ、オーストリア、スイス、スウェーデン、アイルランド、フィンランド、ノルウェー、アイスランド、デンマーク

(c) 日本、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド

第1四半期における新興市場の売上高は、5.5%増の25億9,000万ユーロでした。糖尿病(16.1%増)、CHC およびジェンザイム(18.2%増)は2桁成長を記録しました。中南米は、ブラジルの業績に牽引され、期中に売上高の2桁成長を記録しました。ブラジルの売上高は、ジェネリック医薬品の回復(113.3%増の5,200万ユーロ)、糖尿病(25.0%増)、およびワクチン(39.1%増)の好業績を反映し、19.9%増の3億5,900万ユーロとなりました。中国の売上高は、主に糖尿病およびCHCの業績がPentaxim®の供給時期の影響を受けたワクチンの売上高減少に相殺され、10.3%増の3億7,700万ユーロとなりました。東欧、ロシア、およびトルコの売上高は、ロシア(8.8%増の1億9,500万ユーロ)およびトルコ(15.5%増)の好業績に牽引され、4.0%増の6億400万ユーロとなりました。アフリカの売上高は、アルジェリアおよびモロッコの一部顧客の購入パターンと在庫政策の変更を反映し、11.0%減の2億3,300万ユーロとなりました。

第1四半期における米国の売上高は、糖尿病(14.4%増)、ジェンザイム(31.0%増)、ワクチン(23.8%増)、およびNasacort®のスイッチOTC薬の成功に支えられたCHC(18.1%増)の好業績に牽引され、7.5%増の24億1,500万ユーロとなりました。

第1四半期における西欧諸国の売上高は、糖尿病(8.3%増)およびジェンザイム(14.8%増)の継続的な成長がAprovel®のジェネリック医薬品との競合によって相殺され、前年同期並み(0.3%減)の19億9,800万ユーロとなりました。

日本の売上高は、Allegra[®](アレグラ)、Myslee[®](マイスリー)、および Amaryl[®](アマリール)のジェネリック医薬品との競合と、Imovax[®](イモバックスポリオ皮下注)の売上高の鈍化を反映し、2.5%減の5億8,700万ユーロとなりました。

研究開発の最新情報

サノフィの研究開発パイプラインの全容については、付録5をご参照ください。

薬事関連の最新情報

2014年2月6日の2013年度通年業績発表以降、以下の薬事関連の出来事がありました。

- 4月、サノフィと子会社のジェンザイムは、FDAとの建設的な協議を経て、第2四半期に再発性多発性硬化症の治療薬として **Lemtrada[™]** (一般名: alemtuzumab) の承認を求める生物学的製剤追加承認申請 (sBLA) を再提出する計画を発表しました。再提出によって、2013年12月の審査完了通知でFDAに指摘された問題に具体的な情報を提供します。申請が受理されると、FDAは2カ月間または6カ月の審査期間を割り当てます。ジェンザイムは、FDAの審査完了通知に異議申し立てを行う意向を以前に発表していましたが、再提出計画を考慮し、今回は異議申し立てを行わない予定です。
- 3月、抗CD38モノクローナル抗体である **SAR650984** について、骨髄腫の治療薬として欧州医薬品庁(EMA)よりオーファンドラッグ指定を受けました。
- 2月、欧州委員会は、犬のノミ・マダニ寄生の駆除薬として **NexGard[™]** (ネクスガード) (一般名: アフォキシラネル) を承認しました。NexGard[™] (ネクスガード) は、ミアレルギー性皮膚炎管理の治療戦略の一部としても用いられます。

2014年4月末時点の研究開発パイプラインは、臨床開発段階にあるワクチンの候補を含む50のプロジェクト(ライフサイクルマネジメントを除く)から構成され、そのうち12は第III相あるいは保健当局に承認申請を行っている段階にあります。

ポートフォリオの最新情報

第III相:

- 4月、サノフィパスツールは、**デング熱ワクチン**に関する2件の主要な第III相有効性試験の1件目が主要臨床評価項目を達成したことを発表しました。この有効性試験では、デング熱の発症数が有意に56%減少することが明らかになりました。初期の安全性データは、過去の試験で認められた良好な安全性プロファイルと一致していました。完全なデータ解析は、数週間以内に実施され、外部専門家による審査を経てから、今後の国際的な学術会議で開示され、年内に査読誌に掲載されます。この1件目の大規模有効性試験の結果は、さらに中南米で現在2万人以上の被験者を対象に実施中で2014年度第3四半期にはその結果が得られる2件目の大規模試験によって補足される見込みです。
- 3月、現在開発中のPCSK9を標的とするモノクローナル抗体である **alirocumab** (Regeneron社との共同開発) に関する第III相 **ODYSSEY MONO** 試験の初の完全なデータ結果が第63回米国心臓病学会 (ACC) 年次学術会議で発表されました。ODYSSEYは、治験薬剤 **alirocumab** に関するグローバルな第III相試験プログラムです。ODYSSEYは現在、23,500人以上の高コレステロール血症患者さんを対象とした14件の臨床試験から構成されています。2014年6月から2014年度第3四半期までの間に、更なる重要な第III相データが報告される見込みです。ODYSSEYプログラムに含まれる進行中の第III相試験は現在、(ODYSSEY OUTCOMES試験を除き) いずれも登録が完了しています。
- EUでの高コレステロール血症に対する **alirocumab** の承認申請は、2014年度第4四半期を予定しています。
- 4月、サノフィとRegeneron Pharmaceuticals, Inc.社は、日本人患者を対象とした **alirocumab** に関する初の第II相試験が主要評価項目を達成したことを発表しました。この結果から、3種類の用量(150 mg、75 mg、50 mg)の **alirocumab** をスタチン併用下で隔週投与する試験群にランダムに割り付けられた患者において、ベースラインから12週目までの低比重リポタンパクコレステロール (LDL-C、いわゆる「悪玉」コレステロール) の低下率(試験の主要有効性評価項目)がプラセボ投与群と比較して有意に高いことが明らかになりました。現在、日本で第III相プログラムが開始されています。

- **Lantus[®]** (ランタス)/**Lyxumia[®]** (リキシミア)の固定比率合剤である **LixiLan** に関する第 III 相プログラムが最近開始されました。

第 II 相:

- **ALN-TTRsc/SAR438714** (Alnylam 社と共同開発)が家族性アミロイド心筋症 (FAC) の治療薬として第 II 相開発段階に入りました。また 4 月、欧州医薬品庁 (EMA) の希少疾患医薬品委員会が **ALN-TTRsc** を希少疾患医薬品として指定することを勧告する肯定的見解を採択しました。
- 3 月、サンディエゴで開催された米国アレルギー・喘息・免疫学会議にて、外用薬ではコントロール不十分な中等度から重度までのアトピー性皮膚炎患者を対象とし、インターロイキン 4 受容体 α (IL-4R α) サブユニットを標的とするヒトモノクローナル抗体 **dupilumab** を 12 週間にわたり投与して評価する第 IIa 相試験の良好なデータが発表されました。12 週目の時点で、**dupilumab** 群は、疾患活動性およびそう痒を評価するすべての基準において、プラセボ群と比較して統計的にすぐれた臨床アウトカムを達成しました。**dupilumab** を外用ステロイド (TCS) 治療と併用して評価する小規模な第 II 相試験での最長 78 日間にわたる追跡評価を含む更新されたデータも発表されました。**dupilumab** 併用療法では、TCS 単独の場合と比較して、TCS の使用量は少ないにもかかわらず、臨床的効果の評価項目において顕著、持続的、かつ有意な改善が認められました。
- サノフィは、抗 VLA 2 モノクローナル抗体である **SAR 339658** について、潰瘍性大腸炎における開発を追求せず、第 II 相臨床試験を開始して多発性硬化症における使用の評価に絞り込むことを決定しました。
- 急性リンパ性白血病における **SAR3419** の開発は中止されました。

第 I 相:

- サノフィは、**RetinoStat[®]** のライセンスオプションを行使しないことを決定しました。

新規提携:

3 月、サノフィと **UCB 社** は、胃腸病や関節炎などの領域で幅広い免疫関連疾患を治療する可能性を秘めた革新的な小分子抗炎症薬の創薬・開発に関する科学的・戦略的提携契約を締結したことを発表しました。**UCB 社** の研究部門である **UCB NewMedicines** では、非経口的に投与される生物学的製剤が患者さんに対して高い有効性を有することが明らかになっている生物学的経路に対する小分子モジュレータを特定する革新的なアプローチを用いています。サノフィと **UCB** のリーダーシップの下で専任の研究チームが編成され、創薬・開発ベースの協力をを行い、新しい治療薬候補の特性化および特定に取り組みます。

3 月、サノフィのワクチン部門であるサノフィパスツールは、カバーする血清型の範囲を拡張した革新的な結合型肺炎球菌ワクチン (PCV) を共同開発する長期的な戦略的提携契約を **SK Chemical 社** と締結したことを発表しました。この契約により、サノフィパスツールは、40 億ドル規模の世界的な PCV 市場に参入します。世界保健機関 (WHO) は、すべての国における PCV の使用を勧告しています。

2014 年度第 1 四半期の業績

事業純利益⁽¹⁾

第 1 四半期におけるサノフィの**純売上高**は、前年同期比 (調整前) で **2.7%減** (為替レート変動の影響を排除した場合は **3.5%増**) の **78 億 4,200 万ユーロ**となりました。第 1 四半期における**その他収益**は、前年同期に米国で **Enbrel[®]** のロイヤリティが終了したことの影響を受け、**15.3%減**の **8,300 万ユーロ**となりました。

第 1 四半期における**売上総利益**は、**3.6%減** (為替レート変動の影響を排除した場合は **2.8%増**) の **54 億 900 万ユーロ**となりました。純売上高に対する売上原価の比率 (**CoS 率**) は、前年同期比 **0.5 ポイント増**の **32.1%**となりました。これは、医薬品の **CoS 率** の改善 (グループの **CoS 率** に関し、為替レート変動の影響を除き **0.4 ポイント**の好影響)、ワクチンおよび

⁽¹⁾ 財務指標の定義については付録 6、事業純利益から当社株主に帰属する連結純利益への調整については付録 3 を参照

動物用医薬品のマイナス効果(グループの CoS 率に関し、為替レート変動の影響を除きそれぞれ 0.3 ポイントのマイナス影響)、ならびに為替レート変動のマイナス影響を反映したものです。

第 1 四半期における**研究開発費**は、1.6%減の 11 億 3,900 万ユーロとなりました。研究開発費は、為替レート変動の影響を排除した場合、後期段階ポートフォリオへの投資を反映し、1.1%微増しました。

第 1 四半期における**販売費および一般管理費**は、2.9%減の 20 億 7,800 万ユーロとなりました。販売費および一般管理費は、為替レート変動の影響を排除した場合、製品発売(Aubagio[®]、Lemtrada[™]、Nasacort[®] OTC、NexGard[™](ネクスガード))への投資を反映し、2.5%増となりました。純売上高に占める販売費および一般管理費の割合は、前年同期の 26.6%に対し、26.5%となりました。

第 1 四半期における**その他の当期営業損益**は、米国における Actonel[®]に関連した Warner Chilcott 社からの支払い(3,800 万ユーロ)が含まれた前年同期の 2,900 万ユーロの収益に対し、2,500 万ユーロの損失となりました。2014 年度第 1 四半期のこの項目には、カナダでの ramipril 訴訟に関連した追加的な準備金(2,400 万ユーロ)が含まれています。

第 1 四半期における**関連会社持分利益**は、前年同期の 1,800 万ユーロに対し 1,300 万ユーロであり、**非支配株主に帰属する純利益**は、14.6%減の 3,500 万ユーロとなりました。

事業営業利益は、前年同期比 7.6%減の 21 億 4,500 万ユーロとなりました。為替レート変動の影響を排除した場合、事業営業利益は 0.6%増でした。純売上高に占める事業営業利益の割合は 27.4%でした。

第 1 四半期における**純財務費用**は、前年同期の 1 億 4,000 万ユーロに対し、7,600 万ユーロでした。この項目には、金融投資の部分売却に関連するキャピタルゲイン(4,100 万ユーロ)が含まれます。

第 1 四半期における**実効税率**は 25%でした。

第 1 四半期における**事業純利益⁽¹⁾**は、3.2%減(為替レート変動の影響を排除した場合は 5.6%増)の 15 億 4,700 万ユーロとなりました。

2014 年度第 1 四半期の **1 株当たり事業利益⁽¹⁾(EPS)**は、調整前では 3.3%減、為替レート変動の影響を排除した場合は 5.8%増の 1.17 ユーロとなりました。2014 年度第 1 四半期の期中平均発行済み株式数は、前年同期の 13 億 2,220 万株に対し、13 億 1,990 万株となりました。

事業純利益から連結純利益への調整(付録 3 を参照)

2014 年度第 1 四半期の事業純利益と当社株主に帰属する連結純利益間の主な調整項目は、以下のとおりです。

- 買収企業の無形固定資産の公正価値での再評価(主にアベンティスの 2 億 5,700 万ユーロ、ジェンザイムの 2 億 3,400 万ユーロ、メリアル[®]の 9,700 万ユーロ)および取得した無形固定資産(ライセンス・製品:2,000 万ユーロ)に関連した償却費、6 億 7,700 万ユーロ。この項目によって、グループにキャッシュ面の影響が生じることはありません。
- 無形固定資産に対する減損損失、300 万ユーロ。この項目によって、グループにキャッシュ面の影響が生じることはありません。
- CVR に関連した偶発対価の公正価値の上昇(500 万ユーロの損失)および Lemtrada[™]に関連したバイエル社の偶発対価の公正価値の上昇(1,200 万ユーロ)を反映した 800 万ユーロの損失。
- 主に欧州および米国で実施中の再編に関連した事業再編費用、5,100 万ユーロ。
- Alnylam 社株式の売却益、3,500 万ユーロ。この項目によって、グループにキャッシュ面の影響が生じることはありません。
- 上記項目から生じた 2 億 4,800 万ユーロの税効果(無形固定資産に対する償却費から生じた 2 億 4,400 万ユーロおよび事業再編費用に関連した 1,500 万ユーロの繰延税金から構成される)。(付録 3 を参照)
- 「関連会社持分利益」に含まれる、主に無形固定資産の負担に関連した 800 万ユーロの費用(税控除後)。この項目によって、グループにキャッシュ面の影響が生じることはありません。

⁽¹⁾ 財務指標の定義については付録 6、事業純利益から当社株主に帰属する連結純利益への調整については付録 3 を参照

純負債

運転資本の増減による影響(2,900 万ユーロ減)と資本支出(2 億 7,900 万ユーロ)を考慮し、事業再編費用を除いた 2014 年度第 1 四半期における営業活動からの純キャッシュは、13 億 9,600 万ユーロとなりました。それを事業再編費用(2 億 4,400 万ユーロ)、株式買い戻し(3 億 5,500 万ユーロ)、買収・提携(Regeneron 社に関連した 9 億 5,400 万ユーロと Alnylam 社に関連した 5 億 3,000 万ユーロを含む 15 億 5,600 万ユーロ)のための財源に充当しました。その結果、純負債は、2013 年 12 月 31 日時点の 60 億 4,300 万ユーロから 2014 年 3 月 31 日時点の 66 億 9,700 万ユーロ(64 億 5,800 万ユーロの現金および現金等価物を控除)へと増加しました。

付録

付録一覧

付録 1: 2014 年度第 1 四半期の地域別・製品別連結純売上高

付録 2: 2014 年度第 1 四半期の損益計算書

付録 3: 事業純利益から当社株主に帰属する純利益への調整

付録 4: 2014 年度第 1 四半期の連結損益計算書

付録 5: 研究開発パイプライン

付録 6: 定義

付録 1: 2014 年度第 1 四半期の地域別・製品別連結純売上高

2014 年度第 1 四半期純売上高 (単位: 100 万ユーロ)				合計	% CER	調整前	西欧諸国	% CER	米国	% CER	新興市場	% CER	その他	% CER
Lantus (ランタス)	1,448	13.5%	8.2%	208	5.6%	951	14.5%	225	17.9%	64	8.8%			
Apidra (アピドラ)	75	19.7%	13.6%	23	21.1%	28	11.5%	17	28.6%	7	28.6%			
Amaryl (アマリール)	86	0.0%	-8.5%	6	0.0%	0	-	65	6.0%	15	-19.0%			
Insuman	32	3.0%	-3.0%	21	-4.5%	0	-	12	18.2%	-1	-			
Lyxumia (リキスマイア)	5	-	-	3	-	0	-	0	-	2	-			
糖尿病	1,662	13.2%	7.8%	275	8.3%	979	14.4%	320	16.1%	88	6.2%			
Taxotere (タキソテール)	69	-28.7%	-36.1%	4	-50.0%	3	-72.7%	39	-23.2%	23	-18.2%			
Jevtana (*)	66	30.8%	26.9%	38	58.3%	20	0.0%	7	14.3%	1	100.0%			
Eloxatine	46	-15.3%	-22.0%	1	-50.0%	1	-87.5%	30	-5.9%	14	6.7%			
Thymoglobulin (サイモグロブリン)	52	22.7%	18.2%	8	0.0%	23	0.0%	18	90.0%	3	50.0%			
Mozobil (*)	25	0.0%	-3.8%	8	0.0%	13	-7.1%	3	0.0%	1	100.0%			
Zaltrap (*)	16	45.5%	45.5%	7	600.0%	8	-20.0%	1	-	0	-			
その他のオンコロジー製品	70	19.7%	14.8%	16	0.0%	45	31.4%	7	-12.5%	2	100.0%			
オンコロジー	344	0.8%	-4.7%	82	22.4%	113	-5.7%	105	-4.2%	44	0.0%			
Aubagio	78	305.0%	290.0%	17	-	59	205.0%	1	-	1	-			
Lemtrada	5	-	-	5	-	0	-	0	-	0	-			
Cerezyme (セレザイム)	168	5.8%	-1.8%	59	3.5%	45	7.0%	56	10.0%	8	-9.1%			
Myozyme (マイオザイム)	121	7.8%	4.3%	63	-6.1%	31	10.0%	20	64.3%	7	16.7%			
Fabrazyme (ファブラザイム)	98	13.0%	6.5%	25	25.0%	51	12.8%	9	-31.3%	13	66.7%			
Aldurazyme (アウドラザイム)	41	16.2%	10.8%	16	6.7%	7	14.3%	14	45.5%	4	-25.0%			
その他	55	5.3%	-3.5%	9	-9.1%	19	-9.5%	12	33.3%	15	18.8%			
ジェンザイム	566	21.5%	14.8%	194	14.8%	212	31.0%	112	18.2%	48	19.6%			
Plavix (プラビックス)	487	18.2%	8.2%	62	-4.6%	0	-	204	4.4%	221	42.5%			
Lovenox	416	1.4%	-2.8%	229	7.5%	32	-32.7%	135	4.2%	20	0.0%			
Aprovel	179	-22.8%	-25.7%	54	-45.5%	4	33.3%	95	-1.0%	26	-27.8%			
Renagel (レナジェル) および Renvela	172	5.3%	0.6%	32	0.0%	114	-2.5%	22	92.3%	4	0.0%			
Allegra (アレグラ)	80	-46.2%	-52.7%	3	50.0%	0	-	1	-96.6%	76	-37.0%			
Stilnox (マイスリー)	78	-14.9%	-22.8%	11	0.0%	16	-10.5%	16	-10.0%	35	-21.6%			
Depakine	92	-7.5%	-13.2%	33	0.0%	0	-	56	-12.9%	3	33.3%			
Synvisc (サイビスク) / Synvisc-One	70	-5.2%	-9.1%	6	20.0%	53	-12.7%	8	50.0%	3	0.0%			
Tritace	68	-9.0%	-12.8%	32	-5.9%	0	-	34	-7.3%	2	-66.7%			
Multaq (*)	73	21.0%	17.7%	10	0.0%	60	26.5%	2	0.0%	1	0.0%			
Lasix (ラスィックス)	36	-5.0%	-10.0%	20	11.1%	1	0.0%	12	16.7%	3	-66.7%			
Targocid (タゴシッド)	37	-9.3%	-14.0%	20	-9.1%	0	-	15	-5.6%	2	-33.3%			
Orudis	35	14.3%	0.0%	5	-16.7%	0	-	29	21.4%	1	0.0%			
Cordarone (アンカロン)	32	0.0%	-8.6%	6	0.0%	0	-	18	5.3%	8	-10.0%			
Xatral	24	-3.8%	-7.7%	10	11.1%	0	-100.0%	14	14.3%	0	-200.0%			
Actonel	21	-17.9%	-25.0%	4	-16.7%	0	-	11	-20.0%	6	-14.3%			
Auvi-Q / Allerject (*)	10	25.0%	25.0%	1	0.0%	8	33.3%	0	-	1	0.0%			
その他の処方薬	909	-10.9%	-15.8%	407	-6.5%	98	-22.8%	320	-11.3%	84	-12.6%			
その他の処方薬計	2,819	-5.7%	-11.3%	945	-6.1%	386	-10.2%	992	-4.5%	496	-3.8%			
コンシューマー・ヘルスケア	885	18.6%	9.1%	200	0.0%	201	18.1%	435	34.8%	49	-13.4%			
ジェネリック医薬品	421	8.0%	-0.5%	139	0.0%	28	-46.3%	244	23.6%	10	100.0%			
医薬品	6,697	4.7%	-1.6%	1,835	0.0%	1,919	7.2%	2,208	8.6%	735	-1.2%			
ポリオ・百日咳ワクチン	211	-15.9%	-21.9%	6	0.0%	76	90.5%	92	-32.9%	37	-43.4%			
インフルエンザワクチン	135	19.3%	13.4%	0	-	21	40.0%	105	17.2%	9	9.1%			
髄膜炎菌性髄膜炎・肺炎ワクチン	56	-25.0%	-30.0%	0	-100.0%	38	-4.8%	15	-54.3%	3	100.0%			
成人用ブースター (追加接種) ワクチン	81	0.0%	-4.7%	8	-42.9%	64	15.5%	7	-12.5%	2	-40.0%			
トラベラーズワクチンおよびその他風土病用ワクチン	75	10.8%	1.4%	5	0.0%	15	6.7%	41	7.1%	14	33.3%			
その他のワクチン	70	4.3%	1.4%	2	-	65	6.3%	1	0.0%	2	-100.0%			
ワクチン	628	-4.2%	-9.9%	21	-19.2%	279	23.8%	261	-15.0%	67	-28.4%			
フィプロニル製品	171	-8.2%	-12.8%	62	-1.6%	75	-21.8%	22	13.6%	12	36.4%			
Nexgard (ネクスガード)	23	-	-	1	-	22	-	0	-	0	-			
ワクチン	154	-1.2%	-6.1%	42	-2.3%	34	6.1%	75	-3.6%	3	0.0%			
アベルメクテン製品	114	-14.8%	-19.7%	16	0.0%	67	-23.1%	12	16.7%	19	-8.7%			
その他	55	11.5%	5.8%	21	4.8%	19	25.0%	12	27.3%	3	-25.0%			
動物用医薬品	517	-1.6%	-6.7%	142	0.0%	217	-6.2%	121	3.9%	37	2.4%			
グループ合計	7,842	3.5%	-2.7%	1,998	-0.3%	2,415	7.5%	2,590	5.5%	839	-4.0%			

付録 2: 損益計算書

2014 年度第 1 四半期 (単位: 100 万ユーロ)	グループ合計			医薬品			ワクチン			動物用医薬品			その他	
	Q1 2014	Q1 2013 ⁽¹⁾	前年度比	Q1 2014	Q1 2013 ⁽¹⁾	前年度比	Q1 2014	Q1 2013 ⁽¹⁾	前年度比	Q1 2014	Q1 2013 ⁽¹⁾	前年度比	Q1 2014	Q1 2013 ⁽¹⁾
純売上高	7,842	8,059	(2.7%)	6,697	6,808	(1.6%)	628	697	(9.9%)	517	554	(6.7%)		
その他収益	83	98	(15.3%)	68	83	(18.1%)	7	7	-	8	8	-		
売上原価	(2,516)	(2,545)	(1.1%)	(1,988)	(2,034)	(2.3%)	(350)	(345)	1.4%	(178)	(166)	7.2%		
純売上高に占める割合	(32.1%)	(31.6%)		(29.7%)	(29.9%)		(55.7%)	(49.5%)		(34.4%)	(29.9%)			
売上総利益	5,409	5,612	(3.6%)	4,777	4,857	(1.6%)	285	359	(20.6%)	347	396	(12.4%)		
純売上高に占める割合	69.0%	69.6%		71.3%	71.3%		45.4%	51.5%		67.1%	71.5%			
研究開発費	(1,139)	(1,157)	(1.6%)	(995)	(990)	0.5%	(107)	(128)	(16.4%)	(37)	(39)	(5.1%)		
純売上高に占める割合	(14.5%)	(14.4%)		(14.9%)	(14.5%)		(17.0%)	(18.4%)		(7.2%)	(7.0%)			
販売費および一般管理費	(2,078)	(2,140)	(2.9%)	(1,791)	(1,836)	(2.5%)	(129)	(141)	(8.5%)	(158)	(163)	(3.1%)		
純売上高に占める割合	(26.5%)	(26.6%)		(26.7%)	(27.0%)		(20.6%)	(20.2%)		(30.5%)	(29.5%)			
その他の当期営業損益	(25)	29		(23)	30		(2)	2		6	(1)		(6)	(2)
関連会社*および合弁会社持分利益	13	18		8	19		5	(1)						
非支配株主に帰属する純利益	(35)	(41)		(35)	(41)									
事業営業利益	2,145	2,321	(7.6%)	1,941	2,039	(4.8%)	52	91	(42.9%)	158	193	(18.1%)	(6)	(2)
純売上高に占める割合	27.4%	28.8%		29.0%	30.0%		8.3%	13.1%		30.6%	34.8%			
財務収益(費用)	(76)	(140)												
法人税	(522)	(583)												
法人税率**	25.0%	26.5%												
事業純利益	1,547	1,598	(3.2%)											
純売上高に占める割合	19.7%	19.8%												
1 株当たり事業純利益*** (単位: ユーロ)	1.17	1.21	(3.3%)											

* 税控除後

** 税引前事業利益、関連会社、非支配持分に基づいて算出

*** 2014 年度第 1 四半期の 13 億 1,990 万株、前年同期の 13 億 2,220 万株という期中平均発行済み株式数に基づく

⁽¹⁾ IFRIC 21 への移行の影響を含む

付録 3: 事業純利益から当社株主に帰属する純利益への調整

(単位:100 万ユーロ)	2014 年度 第 1 四半期	2013 年度 第 1 四半期 ⁽¹⁾	前年度比
事業純利益	1,547	1,598	(3.2%)
無形固定資産の償却 ⁽²⁾	(677)	(775)	
無形固定資産の減損	(3)	(10)	
偶発対価債務の公正価値での再評価	(8)	(41)	
在庫に対する買収の影響から生じる費用	-	(3)	
事業再編費用	(51)	(54)	
その他の損益および訴訟費用	35 ⁽³⁾	-	
上記項目の税効果:	248	280	
無形固定資産の償却	244	259	
無形固定資産の減損	1	-	
偶発対価債務の公正価値での再評価	1	4	
在庫に対する買収の影響から生じる費用	-	1	
事業再編費用	15	16	
その他の損益および訴訟費用	(13)	-	
上記の非支配株主に帰属する純利益	1	1	
関連会社と合弁会社の事業再編費用、関連会社と合弁会社に対する買収の影響から生じる費用	(8)	(7)	
当社株主に帰属する純利益	1,084	989	
連結 1 株当たり純利益⁽⁴⁾ (単位:ユーロ)	0.82	0.75	9.3%

⁽¹⁾ IFRIC 21 への移行の影響を含む

⁽²⁾ 合併の一部としての無形固定資産の再評価によって生じた償却費に関して、2014 年度第 1 四半期は 6 億 5,700 万ユーロ、前年同期は 7 億 4,900 万ユーロとなった

⁽³⁾ 業績には、Alnylam 社持分の初日利益が表示されている

⁽⁴⁾ 2014 年度第 1 四半期の 13 億 1,990 万株、前年同期の 13 億 2,220 万株という期中平均発行済み株式数に基づく

事業純利益から連結純利益への調整については、10 ページを参照

付録 4: 連結損益計算書

(単位:100 万ユーロ)	2014 年度 第 1 四半期	2013 年度 第 1 四半期 ⁽¹⁾
純売上高	7,842	8,059
その他収益	83	98
売上原価	(2,516)	(2,548)
売上総利益	5,409	5,609
研究開発費	(1,139)	(1,157)
販売費および一般管理費	(2,078)	(2,140)
その他の当期営業収益	10	71
その他の当期営業費用	(35)	(42)
無形固定資産の償却	(677)	(775)
無形固定資産の減損	(3)	(10)
偶発対価債務の公正価値での再評価	(8)	(41)
事業再編費用	(51)	(54)
その他の損益および訴訟費用	-	-
営業利益	1,428	1,461
財務費用	(147)	(157)
財務収益	106	17
関連会社および合弁会社持分利益を除く税引前利益	1,387	1,321
法人税	(274)	(303)
関連会社および合弁会社持分利益	5	11
純利益	1,118	1,029
非支配株主に帰属する純利益	34	40
当社株主に帰属する純利益	1,084	989
期中平均発行済み株式数(単位:100 万株)	1,319.9	1,322.2
1 株当たり純利益(単位:ユーロ)	0.82	0.75

⁽¹⁾ IFRIC 21 への移行の影響を含む

付録 5: 研究開発パイプライン

申請中

<p>Lemtrada™(一般名: alemtuzumab) 抗 CD52 モノクローナル抗体 多発性硬化症、米国</p>	<p>Cerdelga™(一般名: eliglustat tartrate)^N グルコシルセラミド合成酵素阻害剤 ゴーシェ病、米国、欧州連合 (EU)</p>
<p>Quadracel® ジフテリア・破傷風・百日咳・ポリオワクチン 4~6 歳用</p>	<p>Fluzone® QIV ID 4 価不活化 インフルエンザワクチン皮内接種</p>

第 III 相

<p>Toujeo™ (U300)^N インスリン グラルギン 1 型・2 型糖尿病</p>	<p>alirocumab^N 抗 PCSK-9 モノクローナル抗体 高コレステロール血症</p>	<p>デング熱 軽度から重度までの デング熱に対するワクチン</p>
<p>Lyxumia®(リクスマリア)(一般名: リキシセナチド)^N GLP-1 受容体作動薬 2 型糖尿病、米国</p>	<p>Kynamro®(一般名: mipomersen) アポリポタンパク質 B-100 アンチセンス 重度の家族性高コレステロール血症ヘテロ接合体 米国</p>	<p>クロストリジウム・ディフィシル トキシソイドワクチン</p>
<p>LixiLan リキシセナチド + インスリン グラルギン 固定比率合剤/2 型糖尿病</p>	<p>sarilumab^N 抗 IL-6R モノクローナル抗体 関節リウマチ</p>	<p>DTP-HepB-Polio-Hib (PR5I) (ジフテリア・破傷風・百日咳、B 型肝炎、 ポリオ、ヒブ) 小児用 6 種混合ワクチン</p>
<p>SAR438037(一般名: patisiran)^N mRNA 阻害剤 家族性アミロイドポリニューロパチー</p>	<p>Jevtana®(一般名: cabazitaxel) 転移性前立腺がん(一次療法)</p>	<p>VaxiGrip® QIV IM 4 価不活化 インフルエンザワクチン</p>
<p>SYNVISC-ONE® 医療機器 変形性関節炎による腰痛</p>		

第 II 相

<p>dupilumab^N 抗 IL4Rα モノクローナル抗体 アトピー性皮膚炎、喘息、鼻ポリープ</p>	<p>SAR391786^N GDF8 モノクローナル抗体 サルコペニア</p>	<p>SAR438714 (ALN-TTRsc)^N RNAi 家族性アミロイド心筋症</p>
<p>SAR339658^N 抗 VLA 2 モノクローナル抗体 多発性硬化症</p>	<p>SAR3419^N メイタンシン搭載抗 CD19 モノクローナル抗体 難治性/再発性 B 細胞悪性腫瘍 (非ホジキンリンパ腫)</p>	<p>ロタウイルス 経口弱毒化 4 価生ロタウイルスワクチン</p>
<p>SAR156597^N IL4/IL13 モノクローナル抗体 特発性肺線維症 (IPF)</p>	<p>SAR256212 (MM121)^N 抗 ErbB3 モノクローナル抗体 乳がん(二次療法、三次療法)</p>	<p>狂犬病 VRVg 精製ペロ細胞狂犬病ワクチン</p>
<p>SAR100842^N LPA-1 受容体拮抗剤 全身性硬化症</p>	<p>併用療法 SAR245409 (XL765) / MSC1936369B^N PI3K および mTOR を阻害する経口二重阻害剤 / pimasertib 卵巣がん</p>	<p>髄膜炎菌 (4 価 ACYW) 結合型ワクチン 第 2 世代の髄膜炎菌結合型幼児ワクチン</p>
<p>sarilumab 抗 IL-6R モノクローナル抗体 ブドウ膜炎</p>	<p>SAR279356 (F598)^N 抗 PNAG モノクローナル抗体 重度の感染症</p>	<p>結核 遺伝子組換えサブユニットワクチン</p>

fresolimumab TGFβ拮抗剤 巣状分節性糸球体硬化症	併用療法 ferroquine / OZ439 抗マラリア薬 マラリア
---	---

第 I 相

SAR650984 抗 CD38 モノクローナル抗体 血液がん	SAR228810 抗プロトフィブリル AB モノクローナル抗体 アルツハイマー病	GZ402665 (rhASM) ニーマンピック病 B 型
SAR405838 (MI-773) HDM2 / p53 拮抗剤 固形がん	SAR252067 抗 LIGHT モノクローナル抗体 クローン病	GZ402671 経口グルコシルセラミド合成酵素阻害剤 ファブリー病
SAR153192 抗 DLL4 モノクローナル抗体 固形がん	SAR113244 抗 CXCR5 モノクローナル抗体 全身性エリテマトーデス (SLE)	GZ402666 Neo GAA ボンベ病
SAR566658 メイトンシン搭載抗 CA6 モノクローナル抗体 固形がん	インスリンパイオシミア・プログラム 糖尿病	肺炎レンサ球菌 髄膜炎・肺炎ワクチン
SAR125844 C-MET キナーゼ阻害剤 固形がん	GZ402663 (sFLT-01) 遺伝子療法 加齢黄斑変性症 (AMD)	緑膿菌 抗体フラグメント製品 人工呼吸器関連肺炎の予防
SAR307746 抗 ANG2 モノクローナル抗体 固形がん	StarGen® 遺伝子療法 シュタルガルト病	単純ヘルペスウイルス 2 型 HSV-2 ワクチン
SAR260301 PI3K β 選択的阻害剤 PTEN 欠損がん	UshStat® 遺伝子療法 アッシュヤー症候群 1B	
SAR245408 (XL147) 経口 PI3K 阻害剤 固形がん	SAR438151 ターゲット未開示	
併用療法 SAR405838 / MSC1936369B 固形がん	SAR438584 ターゲット未開示	

N : 新規分子化合物

	オンコロジー
	糖尿病治療
	希少疾患
	バイオサージェリー

	免疫介在性疾患
	感染症
	心血管疾患および腎疾患

	ワクチン
	眼科領域
	加齢性変性疾患

付録 6: GAAP (一般会計原則) と異なる財務指標の定義

純売上高 (為替レート変動の影響を除く)

「純売上高 (為替レート変動の影響を除く)」での変化に言及する場合は、為替レート変動の影響が排除されていることを意味します。

為替レートの影響は、前期に使用された為替レートで当期の売上高を再計算することによって、排除されます。

2013 年度第 1 四半期の純売上高 (調整前) から純売上高 (為替レート変動の影響を除く) への調整

(単位: 100 万ユーロ)	2014 年度 第 1 四半期
純売上高	7,842
為替レートの影響	497
純売上高 (為替レート変動の影響を除く)	8,339

純売上高 (グループ構成の変動要因を除く)

以下のとおり、前期の純売上高を修正することにより、グループ構成の変動の影響が排除されます。

- 買収の影響は、買収の対象となった企業から提供された売上高に関する情報に基づき、現在の期間 (企業または製品の権利が取得された期間) に相当する、買収された企業または製品の前期部分の売上高を含めることによって、排除されます。
- 同様に、企業または製品の権利を売却した場合には、該当する前年同期部分の売上高が排除されます。
- 連結方式の変更については、現在の期間に使用された方式に基づいて、前期部分が再計算されます。

事業純利益

サノフィは、GAAP (一般会計原則) と異なる主要指標を発表します。この「事業純利益」という指標は「特別項目を除いた調整後純利益」を置き換えるものです。

事業純利益は、当社株主に帰属する純利益から以下の項目を除外したものと定義されます。

- 無形固定資産の償却
- 無形固定資産の減損
- 合併に関連する偶発対価債務の公正価値での再評価
- 買収に関連するその他の影響 (関連会社に対する買収の影響など)
- 事業再編費用⁽¹⁾
- その他の損益 (非流動資産の売却損益⁽¹⁾を含む)
- 訴訟に関わる費用または引当金⁽¹⁾
- 上記の各項目に対する税効果と主要な税務訴訟の影響
- 主要な税務訴訟の影響、当社株主に支払った配当に対する課税

(1) 連結損益計算書の Note B.20. で定義されているとおり、再編費用と売却・訴訟に関わる損益の勘定科目で報告されます。

サノフィについて

サノフィは、グローバル事業を統合的に展開するヘルスケアリーダーとして、患者さんのニーズにフォーカスした医療ソリューションの創出・研究開発・販売を行っています。サノフィは、ヘルスケア分野において 7 つの成長基盤を中核としています。それは糖尿病治療、ヒト用ワクチン、革新的新薬、コンシューマー・ヘルスケア、新興市場、動物用医薬品、および新生ジェンザイムです。サノフィはパリ(EURONEXT:SAN)およびニューヨーク(NYSE:SNY)に上場しています。

今後の見通しに関する記述

当プレスリリースには、1995 年民間有価証券訴訟改正法(修正を含む)でいう「今後の見通しに関する記述」が含まれています。今後の見通しに関する記述とは、歴史的事実を述べるものではない記述です。これらの記述には、計画と予測ならびにそれらの根拠となる前提、将来の財務結果、事象、事業、サービス、製品の開発および可能性に関する計画、目標、意向および期待に関する記述、ならびに、将来の実績に関する記述が含まれます。一般的に、今後の見通しに関する記述は、「予想」、「期待」、「見込み」、「予定」、「予測」、「計画」などの表現によって識別されます。サノフィの経営陣はそのような今後の見通しに関する記述に反映された予想を妥当と考えますが、投資家は今後の見通しに関する情報と記述がさまざまなリスクと不確実性の影響を受けやすく、それらの多くが予測困難であり、通常サノフィが制御できず、そのために実際の結果と進展が、今後の見通しに関する情報と記述の中で表現された、暗示された、または予測されたものとは実質的に異なる場合があることに注意してください。そのようなリスクと不確実性には、研究開発、市販後を含む今後の臨床データおよび解析、薬剤・機器・生物学的製剤などの製品候補について提出される申請の承認の是非および時期に関する FDA や EMA などの規制当局の決定、ならびにそのような製品候補の利用可能性や商業的可能性に影響を及ぼすラベリングその他の問題に関する当局の決定に付随する不確実性、製品候補が承認された場合に商業的に成功するという保証の欠如、代替治療薬の将来的な承認および商業的成功とグループが外部成長の機会から利益を得る可能性に付随する不確実性、為替レートと実勢金利のトレンド、コスト削減方針とその後の変更の影響、期中平均発行済み株式数、ならびにサノフィの 2013 年 12 月 31 日終了事業年度フォーム 20-F 年次報告書の「リスク要因」および「今後の見通しに関する記述」項目を含む、サノフィが作成した SEC および AMF に対する公の届け出の中で議論されているかまたは特定されているものが含まれます。サノフィは、適用法によって義務付けられている場合を除き、今後の見通しに関する情報または記述の更新または見直しを行う義務を負うものではありません。